

島根県立大学  
自己点検・評価報告書

平成17年3月

## 第2回自己点検・評価を実施するにあたって

島根県立大学は平成12年4月に開学し、平成16年3月に第1期卒業生を社会に送り出すことができた。いま本学は開学5年目を迎え、ようやく文部科学省の管理下をはずれ、大学としての完成を見たところである。

このような時期にすみやかに自己点検・評価を行うことは、本学の建学の理念がどれだけ教育・研究活動に反映されてきたのか、「地域と共に生きる」ことを標榜してきている本学が果たして地域に開かれた大学としてその使命をはたしてきたのか、これらを再確認するのはもっともふさわしい時期であると考えたからである。

本学は開学2年目の平成14年3月に第1回目の自己点検・評価を行った。建学創生期に本学の基礎と特徴をしっかりと固めておきたいと考えたことと、建学の理念と教育・研究の実践をつねに謙虚に確認しながら大学の運営を進めることを自ら義務づけようとするものであり、開学当初より自己点検・評価を重要視してきたところである。

平成16年9月、設置者である島根県は平成19年4月に県立大学・短期大学の統合化・法人化する方針を示した。どのような形で統合化・法人化が進められるか全容が明らかになっていない段階ではあるが、どのような形になるにしろ、本学自身でできる準備は進めておく必要がある。

特に法人化の問題と密接に絡むと考えられるが、できるだけはやく認証評価機関による第三者評価を受け、大学が一定の水準に達していることを学内外に示すことが大切と判断し、自己点検・評価の実施にあわせ、来年度には財団法人大学基準協会への加盟申請を通して認証評価を受けることにした。

いま評価文化の充実が求められている。本学の自己点検・評価の実施の過程においても、第三者評価を取り入れることが大切と考える。本学にはまだ運営諮問委員会のような機関は設置されていないが、既存の参与会を充実させ、参与会に自己点検・評価内容を説明し、ご意見をいただき、その意見を評価に積極的に反映させることとした。

なお、本学は平成15年4月に大学院北東アジア研究科（博士課程前期・後期）と開発研究科（修士課程）との2つの大学院を開設した。2つの大学院はまだ完成年度を迎えてはいないが、学部の自己点検・評価に併せて、今回、大学院も実施することとした。

島根県立大学長 宇野重昭